

終の家 棲

急激に進展する少子・高齢化に伴って、高齢者単独世帯が急増しています。そうしたなかで、寿命の伸長、家族の介護力の低下などにより、住み慣れた住宅では生活ができない事例も多くなっています。介護保険制度の財政的な逼迫から、国は施設サービスから在宅サービスへと舵を切り、可能な限り自宅や地域の中での生活が志向されています。

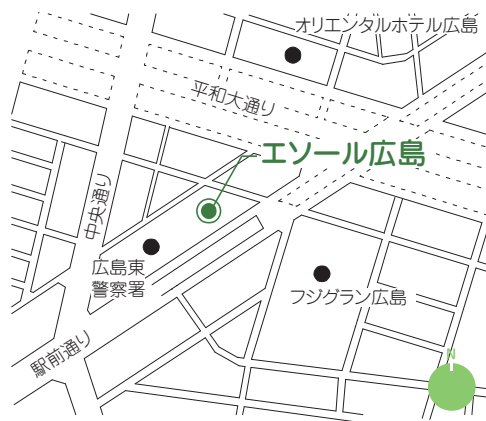
- 1 郊外の住み慣れた戸建て住宅の例
野田 華奈子（中国新聞「団地」取材班担当者）
- 2 支え合う賃貸マンション居住の例
岡本 悦生（コミュニティシステム合同会社 代表者）
- 3 地域密着型認知症高齢者住宅（グループホーム）の例
森信 秀樹（森信建設株式会社 代表取締役）
- 4 既存住宅の高齢者向け改造・改修の例（既存住宅の終の家への活用事例の提案）
平田 欽也（建築家 一級建築士事務所 アトリエ平田代表）

広島における終の家に
向けた取り組み事例から
その課題と今後の展望を探る

定員
50名
3/1 申込締切
入場
無料
当日先着順

日時 2014年 3月 9日 日 13:30 ~ 16:30

会場 エソール広島 2階 コローミレー（会議室）
広島市中区富士見町11-6



主催：NPO住環境研究会ひろしま／ 後援：広島県 広島市 中国新聞社 広島住まいづくり連絡協議会